

認定トピックス Vol.76

認定看護師会 2023年4月26日

うっ血性心不全と嚥下障害

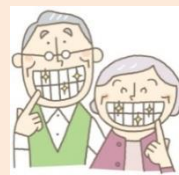


うっ血性心不全は、生活習慣病と深い関係があり、塩分や食事摂取カロリーを制限することが重要です。高齢の方は、塩分や食事摂取カロリーを過剰に制限することで食欲が減退し、低ナトリウム血症や低栄養状態に陥りやすく、うっ血性心不全の予後に悪影響を及ぼす可能性があります。適正に塩分やカロリーを摂取できると、心不全の増悪を予防することができると言われています。

加齢と共に口の機能が衰える『オーラルフレイル』（滑舌が悪くなる、食事の際に食べこぼしがある、むせがある、噛めない食品が増える）により、噛む力や舌の筋力が衰え、食事が満足にとれなくなり、食事の偏り、低栄養状態に繋がります。

「人生100年時代」に向けて、「食べる・話す・笑う」といった口腔機能の維持・向上が重要です。心臓の管理のためにも口腔ケアを行い、歯と口を「健口」に保ちましょう。

慢性心不全看護認定看護師



摂食嚥下障害は、うっ血性心不全が増悪する原因の一つと言われています。摂食嚥下障害による誤嚥性肺炎の合併や、低栄養状態はうっ血性心不全の病態を悪化させたり、生命予後に影響を与える可能性があると言われています。さらに、認知機能の低下も、嚥下関連筋群の廃用を助長し、低栄養状態を進行させてしまいます。

「食べない・食べられない」患者の食事内容を、NST（栄養サポートチーム）と共に早期から検討し、低栄養状態の進行を防ぎ、また、摂食嚥下障害に対しても急性期から介入して嚥下関連筋群の廃用予防することが重要となります。

うっ血性心不全の患者さんに認知機能低下や低栄養状態・摂食嚥下障害がある場合は、早めに認定看護師にご相談下さい。

いつでも口から食べる喜びを持ち続けられるように…

摂食・嚥下障害看護認定看護師



認定看護師の役割は実践・指導・相談です。認定トピックスは、最新の情報や皆様にお知らせしたいことを発信する院内だよりです